

4 令和6年度学校運営評価総括表（令和6年4月－令和7年3月）

●評価は、Ⅰ～Ⅷの各カテゴリーごとの項目を「5 良い 4 やや良い 3 普通 2 やや不十分 1 不十分」で採点し、その平均点として表したものである。（別紙参考資料）

カテゴリー ・項目数	自己評価	学校評価委員会評価
Ⅰ 学校経営 (3項目)	評価点【 4.9 】 Ⅰ. 学校経営の評価は、平均4.9と高い評価であった。 評価項目1の「学校の教育理念・目的に基づく目標設定」については、教育理念が明確に定められ、目標が策定されているため、職員の認識・理解度が高く、高い評価であった。各目標は学校の特性や前年度の評価を反映しており、職員会議で周知されていることも評価された。 評価項目2の「コンプライアンスの重視」については、法令や倫理を遵守した適切な運営が評価されているが、学生や職員等の人権に十分配慮については、「学生が自分を評価されないと感じるときがある」との意見もあり、さらなる配慮を心がけたい。外部委員を含む評価も公表されており、教職員に周知し、ウェブサイトにて外部公表を行っており、学校運営評価委員会での意見を踏まえ、運営の改善に取り組み良い評価を得ている。 評価項目3の「組織全体でのチーム力発揮」については、運営や意思決定が明確化されているが、「過去のケース管理や内規の管理においては改善が必要」との意見や、「意思決定の仕組みの明確化について調整会議にて検討し改善見込み」との意見、また「担当間の連携においては多忙のため十分なコミュニケーションが取れなかった」との意見もあり、改善の余地がある。	評価点【 5.0 】 ・「学生が自分を評価されないと感じるときがある」という意見に関し、実習の中間評価で目標達成が難しい学生には、特に丁寧な指導を行っているとのこと。学生に課題がある場合、実習中にコミュニケーションを多くして、本人にも課題を超えられないと目標の達成は難しいことを少しずつ伝えて、改善を促していくという過程があることを確認できた。 ・「過去のケース管理や内規の管理においては改善が必要」という意見に関しては、ベテラン教員が減り全体の経験値が減っている現在において、適正に判断するためには内規を運用しやすい状態に管理する必要性を感じていることを理解した。
Ⅱ 教育課程・教育活動 (5項目)	評価点【 4.9 】 Ⅱ. 教育課程・教育活動の評価は、平均4.9と高い評価であった。 評価項目4「教育目標（ディプロマポリシー）を明示するとともに卒業時の到達状況を分析しているか」、5「教育内容は、教育理念、教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか」、6「体系的なカリキュラム運営が行われているか」では、R5年度カリキュラム評価の分析結果に基づき、①学生到達度評価における課題をより明確化するためカリキュラムルーブリックの改良、②授業評価アンケートの見直し、③学生カリキュラム評価アンケートの導入に向けた検討、④卒業生アンケ	評価点【 5.0 】 ・授業評価アンケートの回収率が低いことへの課題について、令和7年度よりアンケートの設問数を精選すること、また、回答時間を確保することで回収率を上げ、その結果を授業改善につなげたいと考えていることが理解できた。 ・今回の自己評価内容を令和7年度に実施し、そ

	ートの実施を行った。①については、評価基準を4段階にすることで、未達成項目が明確になり検討しやすく改良した。②については、これまで授業評価アンケートの回収率が低いことが課題となっており、次年度より授業改善に関する設問のみとし、学生の受講姿勢に関する設問は長期休暇前の振り返りとした。③については、現行の評価方法では学生自身が感じるカリキュラムの課題や問題点を抽出することが難しく、より具体的な改善につなげるための検討を行い次年度運用予定である。 新カリキュラムの開始から3年が経過し、アクティブラーニングやシミュレーション、ICTを活用した授業が増え、授業ごとにブラッシュアップされてきている。一方で重点的な教育内容である看護過程・臨床判断・シミュレーション演習の「進捗と積み上げ表」が活用されていなかったり、教科外活動であるクラス運営についても学年での検討にとどまっている現状がある。評価に基づき教育内容や教育方法を効果的・効率的にカリキュラムに反映していくための方策を検討する必要がある。 評価項目7の「評価について公平性・妥当性が保たれているか」について、評価方法は公表しているが、本校独自の評価方法もあり学生の理解につなげるため、評価方法の定義づけを行った。次年度の授業要項に追加予定。 評価項目8の「実習時の安全体制が整っているか」について、毎回インシデント発生時の学生への意識づけはできている。今年度は、看護技術の到達度の見直し、感染予防対策、災害時の学生の実習場所への携帯持ち込みの検討、放射線薬剤曝露予防の検討、抗がん剤曝露の可能性のある場合の対応について検討した。次年度の実習要綱へ追加予定。	の評価等反映されていくことに期待している。 ・新カリキュラムになって3年が経過し、令和7年度からいろいろと運用ができるということで、教育課程や教育活動がより充実していくことを理解した。 ・学生時代に社会人基礎力をつけてほしいが、3年生からでは遅いと感じていて、1年生のうちから生涯学習のことと併せて社会人基礎力のことを教えて頂きたい。
Ⅲ 学修成果 (3項目)	評価点【 4.8 】 Ⅲ. 学修成果の評価は、平均4.8の評価であった。 評価項目9の「学生の単位修得に向けた支援を実施しているか」について、新カリキュラムで科目構成が複雑化しているため、履修科目の単元の理解から、スケジュール管理、追再試験の指導等、個人に合わせに必要な指導をきめ細かく行っている。特に単位未修得者の再履修に伴う履修計画指導にかなりの時間を要している。中には自己分析が不十分で受動的になってしまい、主体的に学修に取り組めない学生もいる。成績不振者に対しては、国家試験の補講や個別指導を継続している。特に再試験者に対しては、従来の学修指導から再試験日まで放課後学内での自己学修に変更したが定着しなかった。再試	評価点【 5.0 】 ・令和6年度は再試験者に対して、受動的にならないよう自己学修へ変更したところ、定着しなかったとのことだが、個々の性格もあって一律にするのは難しいかもしれない。 ・この結果を分析して頂きたい。

	験結果や単位未修得者について分析し学修指導を検討していく必要がある。	
IV 入学・卒業、就職・進路支援 (3項目)	評価点【 5.0 】 IV. 入学・卒業、就職・進路支援の評価は、平均 5.0 と高い評価であった。 評価項目12の「入学応募者確保に努めているか」については、各高等学校への訪問・学校案内の実施や、社会人向け個別相談会の実施が評価され、非常に高い評価が得られた。就職や国家試験の合格、進学状況についても公表しており、透明性が確保されている。オープンキャンパスでは独自の工夫が見られ、評価は高い。また、個別の学校見学への対応も行われていることから、入学希望者の確保に向けた取り組みが進められている。本年度は、公募推薦の募集要件を緩和したことにより公募受験者が大きく増加し、入学応募者確保につながっていることが大いに評価されている。 評価項目13の「就職・進路支援に取り組んでいるか」については、計画的な支援が行われており、教職員間での連携も評価され、高い評価であった。ただし、学生の特性を生かした個別支援に関しては、「活かすきれていない部分がある」との意見もあり、さらなる取り組みが求められる。地域内就職率の向上に努めている点も高く評価されている。 評価項目14の「卒業生への支援を行っているか」については、卒業生の就業継続支援のホームカミングディ(学生祭と同時開催)などが評価され、非常に高い評価であった。 卒業生が図書室を利用できる環境が整備されており、卒業生や中途退職者に対する就職相談も行われている。	評価点【 4.8 】 ・少子化で学生は減っているとのことだが、公募推薦の募集要件緩和等工夫して、今後も応募者が維持できることを期待している。 ・学生の適性については、学校で見極めて進路指導していただければと思う。例外もあるので一概には言えないが、個性に合わせた進路選択は継続した課題として認識した。 ・就職に関しては学生の希望をできるだけ尊重していただければと思う。 ・卒業後でも学校の先生には相談に乗ってもらえるなど、感謝しており評価できる。
V 学生生活への支援 (3項目)	評価点【 4.9 】 V. 学生生活への支援の評価も、平均 4.9 と高い評価であった。 評価項目15の「健康管理面、精神面、経済面からの学業継続支援体制」については、各方面からの支援が整備されており、高い評価であった。健康診断後の指導や相談体制がしっかりと整っており、カウンセラーの存在や役割も学生に周知されている。また、奨学金や授業料減額免除に関する情報提供や相談にも対応しており、個々の学生の状況に応じた支援が行われている点も評価された。 評価項目16の「学生の自主的な活動を支援しているか」については、学生自治会への支援が評価され、高い評価となっている。しかし、クラブ活動など自主的な活動の支援体制については、学生からの活動要望も少なく、低めの評価となっており、今後何ら	評価点【 5.0 】 ・クラブ活動など自主的な活動の支援体制について、新入生オリエンテーションにて、学生自治会長にクラブ活動について話してもらうなど工夫をしていることは評価できる。 ・学生間のトラブルについて、グループ対立などは教員の介入が難しい面があるが、孤立している学生については教員がフォローしていると聞き安心した。

	かの工夫が求められる。 評価項目 17 の「学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか」については、学生の意見・相談を聞くことができるデジタルツール「C-ラーニングの活用」が相談件数の増加などから良い評価を得ている。しかし、一部の学生間のトラブルにおいては、「どこまで介入したらよいか」など対応の限界が課題として残されている。	・昨今、SNSを発端としたトラブルも多いと聞くので留意してほしい。
VI 財政、施設設備の管理 (4 項目)	評価点【 4.9 】 VI. 財政・施設設備の管理の評価も、平均 4.9 と高評価であった。 評価項目 18 の「予算計画、年間事業計画の策定と執行管理」については、活用しやすい ICT や学習環境の充実を目指し、適正な予算執行が行われており、高い評価であった。年間計画に基づいた計画的な予算執行が実施され、設備備品の充実も計画的に進められている。経費削減対策も組織的に行われており、継続的な改善が期待される。本年度は、情報科学室を授業や学習活動に有効に活用できる設備（デスクトップパソコンからノートパソコンへの更新）に変更し、設備の充実を図ることができた。 評価項目 19 の「災害など非常時の危機管理体制」については、災害発生時のフローチャートや南海トラフ臨時情報に対する防災行動計画を修正し、備蓄物品の点検を行い、災害時簡易トイレを購入するなど充実を図り評価は高い。防災訓練は年 1 回実施しており、防犯や交通安全対策も講じている。危機管理マニュアルは随時見直しを行い、不審者対応マニュアルを作成し、防犯用ダミーカメラを設置するなど強い防犯意識を示したことが評価されている。 評価項目 20 の「施設設備及び教材の整備」については、施設が耐震基準を満たし、指定規則に則った教材や設備が整っていることが高く評価されている。教材・設備の安全性確保のための工夫や改善も継続的に行われており、定期的な点検・整備が実施されている。 評価項目 21 の「学生の自主的な学修の場の整備」については、自主的な学修の場が整備されており、評価は良好である。図書室は利用しやすく、自主的な学修の場として機能しているが、「寒暖の差が激しい」との意見もあり、改善の余地がある。	評価点【 5.0 】 ・予算の確保に関わる項目であるが、夏暑く冬寒い図書室の対策に向け整備できると良い。 ・福祉保健委員会では、将来を担う人材育成のために、備品については必要な予算を計上していくよう、議員からも要望が出ていることがわかったので、是非必要な予算は要求をして頂きたい。
VII 教職員の能力向上 (2 項目)	評価点【 4.9 】 VII. 教職員の能力向上の評価も、平均 4.9 と高評価であった。 教員は看護教育力向上のために積極的に学会研修に参加し、自己研鑽に取り組んでいる。その結果、シミュレーション教育や臨床判断につながる演習	評価点【 5.0 】 ・新カリキュラムが一巡したことを契機に、研究授業を教員のキャリアアップに向けた FD 研修として、位置づけを明確に

	が強化され教育の向上に繋がっている。しかし、新カリキュラムの対応でこれまで以上に授業の準備に時間がかかり、人員の確保も困難になっている。その結果、授業参観や公開授業に手が回らない状況である。そこで手始めとしてカリキュラム評価の一環として、演習協力教員に演習内容や方法、学生の状況等についてアンケートを実施した。実施率は十分とは言えないが、様々な意見が可視化され教員間でも共有しやすくなった。次年度も継続していく。今後も演習を中心に協力体制を強化し、教育力の向上につなげたい。	することが必要と考えていることがわかった。是非取り組んでもらいたい。 ・評価点が高いのは、モチベーション高く取り組んでいる表れだと思う。素晴らしいことだと思うので継続して頂きたい。
VIII 広報・地域活動 (2項目)	評価点【 5.0 】 VIII. 広報・地域活動の全体評価は、平均5.0と高い評価であった。 評価項目24の「学校をPRするための広報活動」については、前年度の評価を踏まえた広報計画が年度当初に策定され、ホームページや学校案内の改良に取り組んだ。オープンキャンパスへの参加者を増やすための工夫を行い、学校独自の広報活動も積極的に実施されている。これらの取り組みが高く評価されている。 評価項目25の「地域社会への貢献」については、地域のボランティア活動（富士山女子駅伝等多数）への参加が促されており、学校独自の地域社会活動（北翔まつりへの参加やキッズジョブなど）も行われている。これにより、地域社会への貢献が評価され、高い評価を得ている。	評価点【 4.8 】 ・ホームページの写真が古いままのところがある。予算の兼ね合いもあるが、新しいものに更新して頂きたい。

◆学校評価委員会

委員長 富士市立看護専門学校 校長
 委員 富士市保健部長
 富士市立看護専門学校 副校長
 富士市立中央病院副院長兼看護部長
 元富士市立看護専門学校 副校長
 富士市立看護専門学校同窓会長
 保護者代表